

第5回 広島西飛行場跡地活用検討会 議事要旨

1 検討会名称

第5回広島西飛行場跡地活用検討会

2 開催日時

平成25年3月25日（月）午後2時～午後3時15分

3 開催場所

広島市役所 本庁舎14階 第7会議室

4 出席者

構成員10人中9人出席、代理出席1人（松浦（弘）委員の代理として、国土交通省中国地方整備局企画部事業調整官の内海一幸氏が出席）

（参考）事務局

広島県：地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議題

広島西飛行場跡地活用検討ビジョン素案について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

5人

8 検討会資料名

次第

名簿

資料 広島西飛行場跡地活用ビジョン素案

9 各出席者の発要旨

事務局

第5回広島西飛行場跡地活用検討会を開会する。

戸田座長

本日の議題は、「広島西飛行場跡地活用ビジョン素案について」である。

前回の検討会において、事務局において、これまでの検討会における意見を踏まえ、「跡地活用ビジョン素案」を作成し、本日の第5回検討会に資料として提出するようお願いをした。

説明をお願いする。

事務局

(資料「広島西飛行場跡地活用ビジョン素案」に沿って説明)

戸田座長

この案について、質問、意見等があればお願いする。

(発言なし)

戸田座長

表記の問題だが、7～8ページの(ア)～(ウ)については記号を変えたほうがよいのではないか。

17ページに「※施設によっては、複数の導入機能に該当する場合がある」とあるが、もう少し分かりやすくできないか。施設によっては複数の機能を導入する場合があるという意味か。

事務局

例えば、スポーツ施設について、平時はスポーツ・レクリエーション機能を果たすが、災害時には広域防災機能を果たす場合があるというような意味である。

戸田座長

もう少しわかりやすい表現を考えてほしい。

山田委員

2点ある。

1点目は、機能分担である。ビジョン素案は、これまでの議論を踏まえよくできているという印象を受けたが、この議論は、第1回検討会で、広島市の4大未利用地においてどのように機能分担していくかということから始まったと思う。ウォーターフロントとか、この跡地でしかできないこととか記載されているのは、そこから導き出されたことだが、他の未利用地との機能分担が記載されていないので、そのことを念頭において考えたということを盛り込んだ方が分かりやすいと思う。

2点目は、ゾーニングである。前回の検討会後の新聞等の報道では、広島ヘリポート側が広域防災、

真ん中のところがスポーツ・レクリエーション、海沿いの方が雇用とかにぎわいというふうに3つに分けるように書かれていた。検討会では、ヘリポート活用の他都市事例を見ると、500mから1 km圏内には、にぎわいやアミューズメント系がないということがあったので、中間エリアまで災害時には防災に転換できるようなイメージを持ちましょうというところで合意されたと思うが、そのように報道されていなかった。広島ヘリポート側の広域防災の拠点と中間と2つをひっくるめたように大きな点線で広域防災を括った方が分かりやすいのではないかと感じた。少し、検討していただければと思う。

戸田座長

2点あった。1点目は、広島都市圏の面からみて、他の未利用地との関係、機能分担についての記載をしてはどうかという指摘。2点目は、広域防災の広がりというか、スポーツ・レクリエーションの取扱いである。これは先ほど私が複数の導入機能のところを指摘したところと重なると思う。正確に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいか、事務局から回答をお願いします。

事務局

1点目、4大未利用地は広島市内に限ったことであるが、広島西飛行場跡地は、広島県の所有地が大部分であるということもあり、都市圏を意識した利活用を考えようというところに出発点がある。18ページ「跡地でしかできないこと、この跡地でできることを意識すること」「跡地の特性を踏まえ、当該地でしかできない活用を意識するとともに、導入する施設内容に応じて実現可能性を十分に検証する必要がある」というところで読んでいただけないかと思う。

15ページの図であるが、ヘリポートの丸い破線は南側を含めるように楕円形に延ばしたらどうかという意見かと思う。

山田委員

(2つを)合わせたような形で広域防災をカバーするエリアとするような(イメージである)。

事務局

そのようにすると、スポーツ・レクリエーションと防災機能を併せ持ったものしかここには来ることができないというイメージになってしまう。スポーツ・レクリエーションの機能配置の考え方としては、「災害時には、防災的な用途に転換しやすい機能」だとも記載している。楕円に延ばすことによって、別の誤解が生まれる可能性があると思う。

戸田座長

17ページと同じように、15ページにも、必ずしもゾーニングというのは、その場所で1つの機能に固定化しない、柔軟に考えるという趣旨を付記するようにお願いします。それから、他の跡地における活用との関係も勘案しているということについては、18ページに「跡地でしかできないこと、跡地でできることを意識すること」とある。読もうと思えば読めるが、もう少し山田委員が言われたことが分かるように文言の検討をお願いします。

山田委員

(広域防災機能の円を楕円にして、スポーツ・レクリエーションも含むような形にするということが)

難しいということであれば、14ページの主たる導入機能のところで円が3つ重なっているが、わざと重ねたということは、広域防災機能でありながらスポーツ・レクリエーション機能、広域防災でありながら新たな産業ということを期待して作ったものだろうと思う。跡地活用イメージでそれが出てこない。なぜここで重ねたのかなと思われるのではないかな。

戸田座長

14ページの複数機能がオーバーレイされていることと15ページの図との整合性がしっくりとこないのではないかなということである。複数機能をゾーニングで完全に包含してしまうと、事務局が言うような心配もある。機能が他の機能を拘束してしまうということがありえるので、注記で対応するということにしたい。事務局、対応をお願いします。

今日、意見をいただいてビジョン素案が整い、素案に対して県民市民の意見をいただき、意見募集の結果を踏まえ県市において跡地活用ビジョンの策定を行う。今日は最終的な検討会になるので、全員から意見をいただきたい。

福田委員

7ページか8ページの現況の整理で、ここの場所の特徴として、南道路が供用されれば広域的なアクセス性が高まると書いてある。これまでの会議の中で、住民の方は、吉島などが非常に近い存在になっていくという話をされた。車でのアクセスのほかに、徒歩や自転車で行ける距離という特徴があるので、どこに書き加えるのかは難しいが、検討していただけたらと思う。

もう1つは、前回、広域防災をここに決めようという議論の中で、川とか海からのアクセス、災害時のアクセスという話があった。三菱重工の（岸壁）やマリーナ（ホップ）の栈橋は使えないことはないから、今後検討していくということだったと思う。それらをどこかに書いておかなくてよいのか。それを前提にそこが広域防災のゾーンでいいという話だったと思う。

18ページの「関係者が連携できる体制を構築すること」の中身なのか、あるいは20ページの矢印の先になるのかわからないが、検討会での議論は、まずは大枠、方向性を示すことであり、具体的なことは今後検討していくという前提だということで説明を受けている。実際にここをどうしていくかという議論の場を作っていく時に、広島市のいろいろな土地に対し、市民の方はいろいろな意見を持っていると思う。ただ意見をくださいというやり方をするのか、もう少し議論の場を積極的に作っていくのか、市民の意見をどうまとめていくかを検討するとよい。意見募集の仕方ということである。決まった後にまた何か意見が出てくるというよりは、整理しながら意見を募集していくという手順を考えてもらうとよいと思う。

戸田座長

2点である。素案について付加すべきことを指摘いただいた。あと1点は、今後の県民市民意見募集を含めて参加の仕方、言い換えれば、今後の検討の仕方についての意見である。

福田委員

具体化するときのやり方かもしれない。

戸田座長

具体化のためのプロセスということかと思う。1 番目、2 番目について、事務局どうか。

事務局

7 ページ、8 ページの歩行者あるいは自転車の動線の話だと思う。これは正直申し上げて、かなり難しい。8 ページは、幅員 10 m 以上の主要道路を表現したので、車がメインと言われても仕方がないところがあるが、これらの道路は、歩行者が通行できるようになっている。歩行者動線ということになるとメインの幹線道路以外にもある。その辺りの表現が難しいと思う。

福田委員

一言どこかに入りたい。

事務局

西側の商工センター、あるいは東側の江波・吉島方面からの車だけではなく、歩行者あるいは自転車等での利便性も高まるという表現を加えておいてはどうかということだと思う。その点については検討させていただきたい。

また、防災機能に関して、三菱重工の岸壁とマリーナホップ港の活用は、既存の施設を生かした一つのアイデアと申し上げた。そのうち、三菱重工の岸壁については、三菱重工と話をしているわけではないので、公文書の中にそれを盛り込むというのは難しい。マリーナホップ港は、公共施設なので、周辺の主要施設に加えたいと思う。

18 ページは、活用ビジョンの実現に向けて、ビジョン策定後の留意点という趣旨で書いている。関係者が具体的にどのように連携できる体制を構築していくかは、今後の議論である。そのような段階になれば、検討してもらおうという趣旨で書かせていただいた。

戸田座長

確かに 18 ページの最後の項目、関係者が連携できる体制を構築するとある。これは、今後の具体的な計画づくりを含む跡地活用の実現に向けて、福田委員が言われたことである。今後の検討が必要であるというように記述されているので、確認していただきたい。

松浦（靖）委員

このように見事なまとめをしていただき、お礼を申し上げる。

確認だが、15 ページの跡地活用イメージの中間の欄のスポーツ・レクリエーションの一番上に、「周辺のスポーツ関連施設と連携しやすい位置にあること」とある。観音マリーナのほうは割と近くて、「連携」という言葉になじむと思うが、（広島県）総合グランドとの連携とは、どのようなイメージなのだろうか。個人的意見だが、総合グランドにある機能は、西飛行場跡地と重複しない方がいいのではないかなと思っている。例えば、20～30 年後に、総合グランド（交通アクセスが比較的良い）を全面建替えし、新たなスポーツ施設を導入という可能性もあるとの思いもある。

20 ページの一番下にあるように、来年度、県民市民から意見を募集するということだが、その後、活用ビジョンを策定する中で、「4 大未利用地のことも踏まえ」などの表現を追加することもあるのかなと思う。ただ、それを書きにくいということであれば、18 ページの枠の中に書くということも

あるのでは。

県民市民の意見を十分に聞くというのは当然だと思うが、大勢の意見が出そろったら、あとは、トップの強いリーダーシップでもって、決断し、スピード感を持って進めていただきたいと思います。

戸田座長

1点目は、連携という言葉について、文章上の文言の問題である。2点目は、意見ということで、お受けする。

1点目については、連携という言葉をもっと良い表現がないか検討してほしい。いずれは、一体的に検討して利活用していくということもありえるだろうという趣旨である。

谷村委員

これまで発言したことを盛り込んでいただいております、うまくまとめられたと思っている。

山田委員が言われた他の未利用地との関係は、最初から議論があったが、この中にはちょっと入れにくいと思った。これから、県民市民の方の意見を聞くときに、「広島市にはこんな跡地もあるんだ」というようなことが、どこかで参考情報で言うことができないかなと思った。

18ページの「タイムスパンを考慮し、段階的な整備も検討すること」というのも明記していただいたので、これ以上言うことはない。実施段階にもこれがきちんと生きるようにしてほしい。壮大な構想はできたが、実現には時間、お金が掛かるということになり、最初にできるのが10年先、それまでは何も使えないということではいけない。地元の方は、そこへ人が来る仕掛けとか切望しておられると思うので、今後の実施段階では、考慮していただければということをお願いしたい。

戸田座長

跡地の他の利用の仕方との関係である。18ページの第1項目について、もう少し分かりやすくなるよう、工夫をお願いしたい。段階的な利用について、当面確定的な利用はしないということになったとしても、そこに柵をして人を入れないということではないという意見である。これは検討会でも確認したところで、暫定的な利用ということもあっていいということである。段階的な整備の中で、何か文言を入れることできないか。

谷村委員

いや、表現はもうこれでよい。

戸田座長

それでは、これでよいということとする。検討会では、そのような理解の下で、このような表現にしたということを確認させていただく。

橋川委員

18ページ「タイムスパンを考慮した」というところの文言について、長いビジョンを描かれるということだが、せっかく貴重な財産があるのだから早く地域に役立つものにしていきたいという思いがある。「早期」とか、「できるところから早く完成する」、「取り組む」というような文言を入れてほしい。委員長が、もうこれでよいのではないかと言われたことを覆すようだが、この文言だけだと長期に渡っ

ていつまでも、地域が活性化しないように思う。現在、観音新町地域には大きなスーパーがなく、日常生活で不便を被っているので、早期に実現に取り組んでももらいたい。文言の中に、「スピーディー」とか「早期」とか、他のものはさておいても、ここを一番にやっていくとしてほしい。「スポーツ・レクリエーション」とか「ヘリポート」はすでに実現しているので、そういうスポーツ施設とか、レクリエーション施設よりも、まずは、商業施設、生活に身近なものから一番に取り組んでほしい。

戸田座長

「タイムスパンを考慮し、段階的な整備も検討すること」のところの文言であるが、「できるところについては、できる限り早く実現を目指すよう努力する」というような文言を織り込むことを検討してほしい。

秋山委員

広島市も公共事業が色々あって、優先順位では駅前の方を先にやるとかというようなことも聞いている。最近はず品の方が、すごく発展している。私は観音新町（町内会）の会長として、あのような画期的な街を大至急作っていただきたいと思う。やっとジェット機が飛ばなくなったと思ったら、その跡地にヘリポートである。ヘリポートがあるので防災に関係したいろんなことをやるが、防災にだけ力を入れるのではなく、ず品の方の街のにぎわいを是非作っていただきたい。市長にも、知事にも、優先順位を是非上げていただいて、早急に検討をしていただきたい。

もう一つは、アクセスの件である。街をつくってから道路をつくるのではなく、先に道路をつくって街をつくるということをビジョンでやっていただきたいと思う。

戸田座長

道路アクセスについては、ここで確認している。ず品のような街をつくることを目指すということであるが、具体化にあたって、恐らくその辺りの議論が行われるだろうと思う。だから、このところは、一応方向性だけということで、「利用」なり、「雇用」という文言が入っているので、そこで留めたいと思う。

内海氏（松浦（弘）委員代理）

国土交通省中国地方整備局としても、ここの利用方法、方針というのは、非常に興味深く、重大なこととして見守っている。

都市計画と街路、道路について、資料の中で気になることがあった。

既存の都市計画決定にはこだわらずに、今後の道路計画を進めていったらいいのではないかということが1点である。

これから、施設の具体的な配置計画が必要になる。そうすると、どこに道路があるからどうするというのではなく、どういう使い方をするかを決めて、それをいかに生かすか、また、いかに渋滞や事故の少ない道路を整備するかということを議論する。道路はツールとして、あとからついてくればよい。それができた段階で現在の都市計画道路を変更されればいいと思う。

もう1点。普通の道路を計画するには、適していないと思った。行き止まりのような道路をつくるわけにはいかないが、かと言って、通常の道路を歩道付きの2車線で巡らすと、渋滞などが発生しかねないので、工夫が必要である。例えば、一方通行のようなものを2車線でやって、途中で信号を作らない

など方法はある。にぎやかなものと言うのであれば、歩道を中心に据えた道路整備も可能である。補助金などで対応できると思うので、是非良い計画を作っていただき、良い社会インフラになればよいと思っている。

戸田座長

今後の検討に当たって、非常に大切なことを指摘いただいた。これまでの都市計画決定にこだわらないこと、道路の形が行き止まりも見られるので工夫が必要であるということである。

中山委員

非常に短い間に取りまとめがここまで来たことを、大変感謝している。

跡地活用のゾーニングの考え方も、3つのゾーニングということで、一番良いものになったのではないかしらと思うし、できれば、民間活力を使った形でゾーニングが張り付くのが、理想ではないかと思っている。

広島都市圏での4大未利用地と言われているが、二葉の里は、財務局が公募に取り掛かるので、民間の力で進んでいくだろう。旧市民球場跡地や広大跡地については、公共も入ってくる可能性もあるが、方向性が出てきている。広島西飛行場跡地の活用が、ビジョンとして対外的に出ることで、中長期になるのか短期になるのかはあるが、民間からいろんなオファーなど動きが出ることを期待している。県も市と一緒に、何ができるか頑張っていきたいと思っている。

西岡委員

皆様のお陰で、現在の広島都市圏を取り巻く様々な環境、地域ニーズや実情等をきちんと踏まえて、将来に向かって一つのビジョンを示すことができたと思う。

（その時代には）その時代の流れというものがあり、右肩上がりの時代には、大きな理想を掲げ、短期間に大型の投資を組み、将来の需要も一定程度見込んでやってきたが、近年は、そういったメカニズムが機能しなくなってきた。ビジョン素案は、実情や地域ニーズをきちんと把握した上で、それに、しなやかに対応していくような形でうまくまとまっていると思う。今後も、地域ニーズに寄り添うような形でありながら、他方では、目先の便宜だけにこだわるのではなく、きちんとした視点を持って進めていこうというようなこともうたわれている。そういう意味で、時代性にも配慮しながら、将来に対する理想も失っていないということで、一定の評価が得られるようなビジョンにまとまったのではないかと考えている。

今後、関係者の間で連携しながら、これをきちんと実現に向けて進めていきたいと思っている。

戸田座長

全ての委員の方々から、発言をいただいた。全体を通じて、他に意見、発言はないか。

（発言なし）

戸田座長

それでは、今後の検討すべき課題について。まず20ページのプロセス表を見てほしい。今回はビジョン素案の検討であるが、これから素案の「素」が取れて「ビジョン案」となっていく。

（この検討会で）どの程度の議論までしようかということについて、第2回辺りまでは、全員の意識が共有できていなかったと思う。基本的な考え方と主要な導入機能、おおまかな方向性についてある程度意識の共有ができ、転機となったのは、現地調査だったと思う。（ほぼ）全員が現地で、ヘリポート、海に面したウォーターフロント、素晴らしい景観を見たことで、導入機能についても大体決まってきたのではないと思う。また、山田委員から、全国のヘリポート周辺はどのような利用をされているのかという発言があった。事務局が、500m圏、1km圏内でどのように利用しているかを整理すると、非常にクリアな構図が出てきた。

そこから、「広域防災」、「スポーツ・レクリエーション」、「新たな産業」という3つのゾーンを導入することにしたが、固定的なものではない。特に、真ん中の「スポーツ・レクリエーション」については、「広域防災」にもなりうることで、にぎわいの空間については、隣接したところとの関連を十分に考慮してということであったかと思う。

これから、ビジョンの素案について、県民市民の方々の意見を募集し、その意見を踏まえて、最終的なビジョンを策定することになる。今日いただいたいくつかの意見は、ビジョン素案をよりよくしていくための意見、検討会で出していただいた意見を分かりやすく反映するための意見だったと思う。市民意見募集の前に、事務局が加筆し、より分かりやすくしたものを私が確認するということで、お任せいただいてよろしいか。

（発言なし）

戸田座長

おおまかな方向性は、この検討会で了解いただいたわけだが、実際はこれからである。橋川委員、秋山委員も言われたとおり、できることを早くすること。福田委員からは、どのような方法で行うのかということがあったが、これについては、来年度、県市において、検討されると思う。そこでは、この短期間に検討した内容を是非とも踏まえていただきたい。そして、より早期に実現できるものは、実現していくということで、お願いしたいと思う。中山委員、西岡委員からも、そういう方向性からの確認の意見を言っていた。

他に意見はないか。

松浦（靖）委員

先ほど、15ページの「連携」のことを申し上げたが、この文章を読み返すと、機能を配置するときの理由が記載してあるので、これでいいと思う。

これは番外編であるが、ある方と話をしていたら、西飛行場跡地で、ラジコンのヘリ大会をやったらどうかと言われた。ヘリポートがある所で、ラジコンヘリは一興かなと思った。また、ラジコン飛行機だとか、ラジコンボートとか。この場でやるのも面白い。小さなイベントかもしれないが、知名度を上げる、あるいは周辺施設への誘客も促すといった効果があるかも。申し上げたいのは、市民の中にはいろんなことに知識・関心を持っている方がいっぱいいるので、そういった方に話を聞くと、いろんなアイデアが出てくるんだろうなということ。一つの参考にしていただければと思う。

戸田座長

これから、県民市民の方に意見をいただく。その際に利用の仕方のアイデアのようなものも出てくる

だろう。

それでは、以上で本検討会における議事は全て終了した。

各委員の皆様方には、短い期間に集中的に議論いただき、また非常に建設的な意見をいただき、誠にありがとうございました。

今後、県と市は、県民市民の意見、県議会、市議会の意見をしっかりと聞いた上で、広島西飛行場跡地活用ビジョンを策定いただき、跡地の活用を着実に進めていただくことをお願いする。

それでは、最後に事務局の方から何かあればお願いします。

事務局

（お礼の挨拶）

戸田座長

これをもって、第5回広島西飛行場跡地活用検討会を閉会する。

誠にありがとうございました。